

## 槍ヶ岳・蝶ヶ岳登山報告

◇日 程 令和元年（2019年）5月1日（水）～5日（日）

◇交通機関 マイカー バス（平湯温泉→上高地）

◇参加者 中原、他2名

◇アプローチ

<往路> (5/1)防府市 18:00＝徳山西 I C＝龍野西 SA 22:34＝草津 SA 0:35＝飛騨清見 I C＝4:30 平湯温泉（あかんだな駐車場）5:30→6:00 上高地

<復路> (5/5)上高地 9:00→9:30 平湯温泉（あかんだな駐車場）9:45＝飛騨清見 I C＝白鳥 P 15:30＝高坂 P 17:30＝防府東 I C＝19:45 防府市

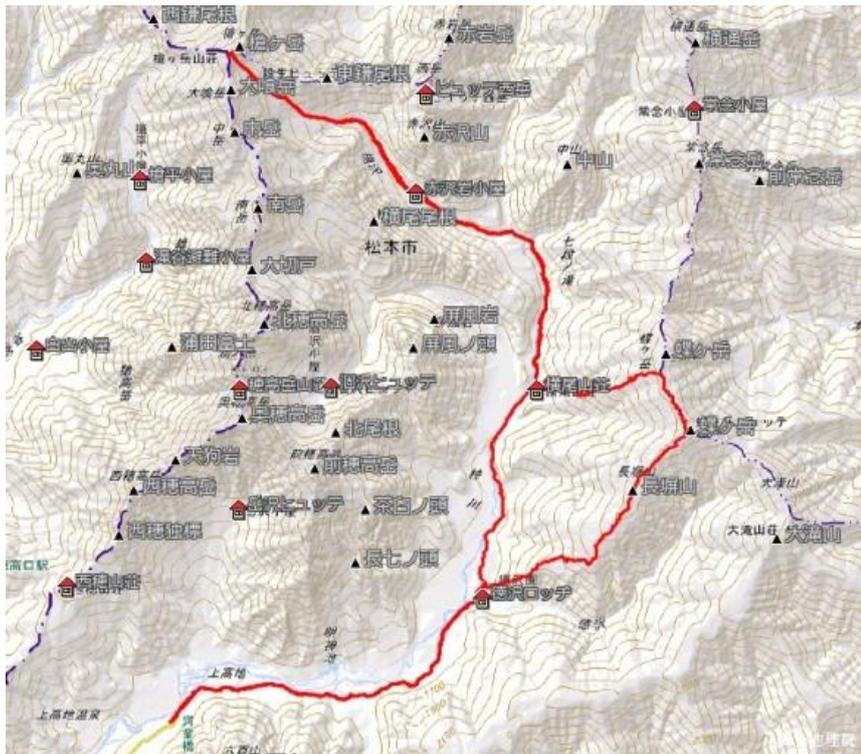
◇行程

(5/2)上高地 6:20・徳沢園 8:00・横尾 8:55・10:50 槍沢ロッジ(昼食)11:30・17:15 槍ヶ岳山荘

(5/3) 槍ヶ岳山荘 7:30・8:41 槍ヶ岳山頂 8:50・10:20 槍ヶ岳山荘 10:30・13:44 槍沢ロッジ 14:00・15:45 横尾山荘

(5/4) 横尾山荘 6:25・10:00 蝶ヶ岳稜線・10:35 蝶ヶ岳ヒュッテ(昼食)11:02・11:07 蝶ヶ岳山頂 11:09・14:07 徳沢園 14:48・15:35 明神館

(5/5) 明神館 7:41・8:37 上高地



◇行動概要

初日、上高地から槍ヶ岳山荘までは距離 22 km, 標高差 1500m の行程。烈風の中、11 時間を超すハード山行となった。翌日以降は天気にも恵まれ、槍の穂先、蝶ヶ岳のピークを踏むことができ、残雪期の春山を充分満喫できた。

(5/2)

天気は晴れているものの、時折、上空から聞こえるヒュ〜ンと風の音が気になったが、上高地から横尾までは野鳥のさえずりを楽しみながら快調に飛ばす。

あずさ川は横尾を過ぎて1時間程度で雪田の下に飲み込まれ伏流となる。槍沢ロッジではカレーライス(1,000円)を注文して、昼食をすませ、槍ヶ岳山荘を目指す。

槍沢ロッジのキャンプ場を過ぎた地点から、広大な雪田が目に見え込んでくる。積雪量が増えてきて歩行速度は鈍化してきたが、槍沢大曲あたりまでは北西の風が時折風になる。

高度を上げるにつれて、風は強烈、かつ、間断なく吹き下ろしてくるので、何度も飛ばされそうになり、体温・体力も奪われていくが、槍沢ロッジに引き返すのは躊躇する。この時期まだ殺生ヒュッテは営業していない。退路を断って、ただただひたすら槍ヶ岳山荘を目指す判断をした。山荘直下の雪壁は這いつくばっての厳しい登りを余儀なくされ、全員疲労困憊の一日となった。



(5/3)

穂先の往復ではルートが氷化しているところもあったので、梯子直下2ピッチをザイルで登攀。途中から下り専用のルートに入ってしまった。先行パーティから突然「らく」との大声。落石ならぬ「落氷」が当方のヘルメットを直撃。大事に至らなかったが、ヘルメットの大切さを改めて痛感。山頂は360度の大パノラマが待っていた。登頂後、横尾山荘まで下る。この日の行程

は8時間。穂先の往復だけで3時間も要した。

(5/4)

横尾から蝶ヶ岳の稜線までは急登が続く。初日の強行軍で体力は疲弊しているので、足も上がらず、亀足歩行となる。森林限界を過ぎハイマツが現れると蝶ヶ岳・蝶ヶ間分岐の稜線に出る。この地点から蝶ヶ岳まで槍ヶ岳・穂高連山の絶景が約1時間続く。特に涸沢カールを中心とした穂高連峰の眺望は抜群で顔面に迫る大迫力に圧倒される。この辺りは穂高を眺める最高のスポットの一つだと思う。天気も良く、緩斜面で心地よい風が吹く中での尾根歩きは至福のひとつときであった。時間が許せば蝶ヶ岳ヒュッテに泊したいところだ。

徳沢に続く長堀尾根は緩斜面だが体力を消耗していたので少々長く感じた。のんびり歩いたせいか明神まで9時間行程となった。なお、アイゼンは稜線では不要だったが、森林地帯では登り降りとも使用した。

(written by 中原)

〈参考〉

ヤマレコ : <https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1833686.html>